



尾道の会  
新田 賢慈



## 消防団員の減少や高齢化への対応

**議員** 消防団員への報酬の支払い方法は。消防団員の減少傾向における職業形態と入団状況は。また、総務省の消防団員の処遇と報酬改善案への対応は。

**市長** 報酬は分団経由で支給している。職業形態はサラリーマン団員が8割を超える。団員数は1,572人で、10年間で111人減少した。消防団の年額報酬は、国では標準額3万6,500円であるが、尾道市は2万円である。出勤報酬額は1回2時間2,000円と国の標準額とほぼ同額。今後見直しを検討し、支給方法も調整する。

## ヤングケアラー(※)への支援体制

※ヤングケアラー…家族の介護や家事を担っている18歳未満の子

**議員** ヤングケアラーの実態調査はしているか。ヤングケアラーに対しての支援は。

**市長** 子どもの権利を守るため早期に取り組むべき課題として捉えている。庁内関係



尾道の会  
前田 孝人



## 当番医に代わる常設の休日診療所を 夜間救急診療所の昼間の時間を活用し

**議員** 市民病院に併設していた夜間救急診療所。総合福祉センターの隣へ仮移転して7年となる。私は市民病院併設から離すべきではないと異論を唱えた。市民病院に併設しているからこそ重症と判断された多くの患者を引き受けることもでき、市民に安心感があった。

ところで現在の夜間救急診療所は医師会の先生方が交替で、毎日午後8時から11時までの3時間、夜間に急を要する患者の診察をしている。ただ準備と片付けを入れても一日の大半は閉じている。この長い空き時間。ここでは日曜、祝日の昼間(9時から17時)の活用について提案する。

休日に診療を行っている当番医は小児科もあり子どものいる家庭にとっては大変ありがたいものである。しかし市民ファーストの観点からみるとどうも腑に落ちないシステムだと思う事がある。

部署による検討会議ではヤングケアラーではないかと思われる複数のケースが報告されている。問題への認識を深めながら相談支援体制の構築に取り組む。

## 西瀬戸自動車道向島料金所のETC設置

**議員** 現在までの取り組み状況と完成時期について伺う。

**市長** 西瀬戸自動車道は交通事故や自然災害で交通渋滞が発生した際の迂回路としても利用されている。そのような中、昨年8月に本四公団より向島料金所のETC設備の設置が発表され、市民の利便性の向上を期待している。10月に工事を発注、令和5年3月から運用開始の予定。半導体不足により少し遅れ込む可能性もある。

## 若年層の収入を安定させる施策は

**議員** 若者が安定した雇用や収入を得るための施策は。

**市長** 尾道しごと館において就職相談、職業訓練の情報提供や助言などを行っている。尾道市ふる里就職促進協議会では安定した仕事および収入につながるサポートをしている。

それは休日に病気になった時には、まず一番に当番医がどこか、また場所はどこかと調べなければならない。その後急いで当番医へ着いたものの駐車場が狭くて駐められないこともある。高熱でぐずる乳幼児を抱えて困ったとよく聞く。いつも思うことだが、どこか常設の休日診療所があれば当番医を探す必要や心配がなく安心できるという事である。そこで**現行の当番医制度に代わる常設の休日診療所を設けては**と思うものだ。つまり休日診療所を設置し、そこへ医師会の先生方に当番として順番に出向いていただくものであり、現行の夜間救急診療所と同じ当番方式である。もちろんこれには医師会の先生方のご理解とご協力があったことだが。夜間救急診療所の日曜・祝日の昼間の時間を活用し当番医に代えて常設の休日診療所として市民の安心に**応えるべき**かどうか。

**市長** 尾道市の休日の救急医療体制については、現時点で最適な体制と考えている。

一般質問を終えて…

市民病院建て替えの検討が始まった。新病院には、内科・小児科・外科の体制で朝まで診察する夜間救急診療所と休日診療所の機能を一体化した施設を設置すべきである。



尾道の会  
いいたるお  
飯田 照男



## 自然環境を取り入れた地域づくりについて問う

**議員** 私たちは自然の恵みの中で生きている。特に尾道には山あり海あり、波静かにて白帆が走り、大小様々な船が行き交う素晴らしい景観がある。こうした海は観光に、レジャーに、また産業や交通にと私たちの生活に計り知れない影響を与えている。このような恵まれた環境を取り入れた地域づくりが必要と思うが、行政としての考えは。

**市長** 他にない景観、歴史と文化に育まれた多彩な資源、また瀬戸内の十字路に位置する広域的な交流拠点としての優位性など様々な特徴を有しており、これら先人たちの残した歴史資源や豊かな景観、かけがえのない自然環境をまちづくりに生かしていきたいと考えている。

## 行政と住民の関係について問う

**議員** 人間社会には数字の「3」が深く関わっている。司法、行政、立法の「3」から始まり、身近なところにも「3」は潜んでいる。野球でも一塁、二塁、三塁で、四塁とは言わない。三振、スリーアウト、など全て「3」である。また、私たちが力をそろえる時の掛け声も「1、2の3」。人間の一生も過去、現在、未来とこれまた「3」である。

かつて市長は、公共性の高い尾道駅から業者が去る時に「民間のことだから行政は関係ない」という内容のコメントを出された。行政、議会、住民が同じ方向を向き、三者が一体となって担げば尾道も軽くなると思う。行政は住民との関係をどのように認識し、行政運営にあたっているか。

**市長** 住民の皆さまに対し、多様化する市民ニーズに応じた公共サービスを、持続的、安定的に提供していくことが必要であると考えている。住民の皆さまと行政とが連携し、協力し合うことで、笑顔あふれるまちになるよう常に心掛けている。



尾道の会  
まきはた しんいち  
巻幡 伸一



## 持続可能な地域交通について

**議員** しまなみ海道通行料金の負担軽減策として、安芸灘大橋に倣って因島大橋や生口橋の通行割引回数券の助成を検討してほしい。

**市長** 国に対して要望した結果、平成26年から当面10年間、現在の料金水準が実現した。利用料について、回数券の支援は行っていないが、「妊婦健康診査等交通費助成」、「障害児通所支援利用者負担金助成」、「じん臓機能障害者通院費助成」などの支援を行っている。

**議員** 過疎地域の交通問題を解決するため、コロナ禍で利用者が激減したバス・タクシーなどの事業者へ経営支援をしてはどうか。

**市長** 既存の交通手段が廃止された場合は、地域の実情に応じた新たな交通手段の在り方を検討する。交通事業者へは、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金や頑張る中小企業者月次支援金を活用した支援を行っている。

## 地域の活性化策

**議員** どうすれば尾道の経済を飛躍させることができるだろうか。

**市長** 尾道市の課税者の平均給与は412万円、日本の勤労者の平均年収433万円を下回る。事業者支援では、利子補給制度や信用保証料の半額補助、設備投資や工場等の新・増設を促す事業を実施している。また、「尾道市産業支援事業推進協議会」を設置し、支援員が各種相談に応じる。政府は賃金の処遇改善や賃上げに積極的な企業への税の控除率拡大を予定している。

**議員** 旧因島三庄中学校校舎を解体するにあたり、代替施設が必要になるが、市の力添えは期待できるか。

**教育長** 耐震性のない校舎は危険と判断し、解体の方針を決定した。解体後の代替施設は市長部局と連携し、丁寧に対応していく。

一般質問を終えて…

他にも、①ワーケーション誘致の取り組み、②土砂災害の恐れがある地域での学校施設の現状、③因の島運輸(株)が行う実証実験後の支援の可能性について質問しました。



公明党・木曜会  
おかだ ひろみ  
岡田 広美



## 女性や若者が活躍する社会

**議員** 少子高齢化の進む日本社会において、女性や若者が政治に関心を持ち、参加することで実行力のある政策が増えると思う。教育の場で現実の政治に触れる機会をもっとつくるべきだ。女性や若者が活躍する社会の実現に向けた取り組みはあるか。学校で子どもが興味を持つような政治教育や高校生が政治について学ぶ環境はあるか。

**市長** 尾道市男女共同参画基本計画において女性の人材育成や情報交換を図ることを目的とした女性団体ネットワークの構築を掲げている。計画の基本目標の1つに「男女がともに参画する地域社会の形成」を掲げ、男女共同参画の啓発や活動の場、機会の提供などに取り組む。性別に関わらず個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の実現を目指す。



公明党・木曜会  
おかむら たかし  
岡村 隆



## 通学路の安全確保

**議員** 国の「通学路合同点検」の内容と進捗状況はどうか。また、市民の方が危険だと感じた箇所を「通学路交通安全プログラム」で対応してもらうための手順は。

**教育長** 通学路の点検は、これまでの観点に文部科学省から依頼のあった観点を加え行った。報告のあった箇所は90件あり、対策を検討中である。危険箇所は、小学校に伝えていただければ毎年2月から3月頃に点検を行っており、結果は4月に教育委員会に提出される。

**議員** 安全対策の優先順位は。また、多大なコストと長い期間を要する場合の対応はどのようにするのか。

**教育長** 地域の理解や協力が得られた箇所から実施する。コストや期間がかかる場合は通学路を変更することも視野に、交通安全指導を行い、児童の安全確保を図っている。

**教育長** 「主権者教育」として学習指導要領に沿った学習のほか、小中高校において、児童会・生徒会活動を通じて自治と選挙を模擬的に学び、活動している。自ら考え、主体的に行動できる参加型の「主権者教育」の充実を図る。

## おくやみサポート等サービスの充実

**議員** スムーズな手続きのため、遺族支援の専門家などを置く考えはあるか。ホームページの「死亡」項目を「おくやみ」に変更してはどうか。コンビニでマイナンバーカードを使って、いつ、どのような証明書類が出せるか。

**市長** 手続きは個々に様々で、複雑なものもあり、専門性の高い担当課の職員で対応する。おくやみハンドブックを導入したり、ホームページの修正を検討するなどサービスの見直しを行う。コンビニ交付は令和4年3月からで、住民票の写し、住民票記載事項証明書、印鑑登録証明書、戸籍全部事項証明書、戸籍個人事項証明書、戸籍附票の写し、所得証明書、所得課税証明書を想定し、手数料は市役所窓口と同額とする予定である。

## 街路樹の剪定時期

**議員** 街路樹の剪定時期について、落葉の前後で、樹木の成長や健康状態に影響があるか。また、剪定時期の判断に地元の皆さまの意向は反映されるか。伐採を要望することはできるか。

**市長** 落葉樹は春先から秋までが活発な成長期とされ、この期間の剪定は樹木の成長や健康状態の悪化につながる恐れがあるため、落葉後に太めの枝や芽を切り落としている。剪定時期についての地元の意向には可能な限り対応している。伐採の要望についても、枯れていたり、健康状態が悪く倒木の恐れがある街路樹については随時対応している。

**議員** 落ち葉の清掃で、公道、歩道などなかなか地元の皆さまでは行き届かない部分を市の方で対応していただけるか。

**市長** 問い合わせをいただければ、可能な範囲で対応している。



一般質問を終えて…  
落ち葉の清掃が大変、スリッパしやすいなど、地域の実情に柔軟な対応をお願いしたい。

一般質問とは、議員が、定例会において、行政全般にわたり、市の事務の執行状況や将来の方針について執行機関（市長など）に質することです。名前横の二次元バーコードをスマホなどで読み取っていただくこと各議員の実際の本会議での質問動画を見ることが出来ます。



公明党・木曜会  
ほしの みつお  
星野 光男



なかのしょうあぶらやしんがい

## 中庄油屋新開樋門改修設計と実施予定

**議員** 油屋新開排水機場樋門改修設計委託料が12月定例会の補正予算に計上されている。設計委託時期と以降のスケジュールを伺う。

**市長** 国の補助事業「農業水路等長寿命化・防災減災事業」で実施する予定。1月以降、測量や設計に着手し、工事は来年度の予算編成の中で、早期に完成できるように取り組む。

## 排水ポンプ場、樋門の管理・安全対策や後継者への引き継ぎなど

**議員** 市内には樋門や排水ポンプ場が95カ所ある。各地域の施設管理者は、大雨警報や台風などで避難勧告が発出されている状況でも、地域や市民の生命・財産を守るために樋門や排水ポンプ場に向かい、排水作業を行う。負担の軽減や施設の安全性向上に向けた取り組みを伺う。また、大雨時等の現場では複数人による作業

が好ましいと考えるが方針を伺う。

**市長** スクリーンの清掃等危険な作業や箇所は、管理者と協議しながら今後も可能な限り改善していく。また、単独作業している施設は、安全性を高めるため複数人による管理体制が構築できるように努めていく。

**議員** 樋門やポンプ場管理の後継者への引き継ぎ状況はどうか。

**市長** 市内各所の施設管理者は高齢化が進み、責任も重いことなどから、後継者の選定には苦慮している。今後も地域の状況を把握されている地元町内会や施設に精通している業者に引き継ぎや管理をお願いしていく。

一般質問を終えて…

ポンプ場や樋門管理者の作業環境を取り上げました。今後も浸水被害の解消と関連する環境整備には注視をしていきたい。



公明党・木曜会  
かのう こうへい  
加納 康平



## 地域公共交通網形成計画の現状と今後

**議員** 地域にとって望ましい公共交通網の姿を明らかにするという観点でこれまでを総括した場合、現在までの計画の進捗状況と課題は。

**市長** 進捗を測る評価指標である「収支率30%未満の路線バス系統のうち運行効率が向上した系統数」、「路線バス等の利用者圏の人口割合」、「関係者の連携・協働による取組み件数」の3指標は令和2年度時点で計画策定時から上昇しているが、「地域公共交通機関を利用しやすいと感じる市民の割合」は低下している。その他の指標については、計画の最終年度に調査する予定である。また、少子高齢化やマイカー普及による利用者数の減少、運転手や船員の高齢化による担い手不足が大きな課題となっている。

**議員** 高齢者の免許返納数と公共交通の利用状況および運行事業者の人材確保の状況

は。

**市長** 令和2年の本市における65歳以上の自主返納者数は637人で、公共交通の利用頻度は高い傾向にあり、今後もさらに需要は増える見込み。一方、運転手や乗組員の平均年齢は、バス事業者で50.8歳、タクシー運転手が63.7歳、船員については、全国の内航船船員のうち50歳以上が45.3%で、従事者の高齢化が進んでいる。また、おのみちバス(株)における令和3年6月21日から7月16日までの実態調査で、一日の利用者は、障がい者が497人、児童は110人、生徒は576人となっている。

**議員** 今後の地域公共交通計画の方向性は。

**市長** 現計画は「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づき策定しているが、令和2年の法律改正により、「地域が自らデザインする地域の交通」と「輸送資源の総動員による移動手段の確保」を柱としており、利用者ニーズを把握し、地域にとって望ましい地域旅客運送サービスの姿について検討し、策定していく。



青嵐会  
みやち ひろき  
宮地 寛行



## 新しい生活様式での「尾道スタイルによる敬老会」

**議員** 敬老会の参加率は毎年低下し、約8割の人が参加できていない状況がある。

そこで、足が不自由などの理由で参加できない人のためにも、自宅でも楽しめる、老人ホームでも楽しめる、デイサービスなど福祉施設でも楽しめる、そういった敬老会を開催してはいかがか。

その方法とは、「防災ラジオ」を活用しての敬老会である。例えば、市長の挨拶、立式式や青少年健全育成大会などで使われる「私のおじいちゃん」とか「ウチのおばあちゃん」など、地元小学生の心温まる作文、地域によっては中学校の吹奏楽部の演奏や太鼓などなど、アイデアを地域ごとに募って行えばよいと思うがいかがであろうか。

**市長** 新しいメディアを活用する、ひとつのアイデアとして参考にさせていただきたい。

**議員** 尾道市直営で行うことにより、地域の人たちの負担もなく、加えて防災ラジオの普及率もアップすると思う。

また、コロナの状況を気にする必要もなく、天候に悩まされることもなく、コスト削減や感染予防にもつながる。

万が一対象となる方が入院することになって、病院でも楽しめる。

対象となる方も自宅でお孫さんと一緒に楽しむこともできるし、「分散して縮小」といった、これからの時代に合ったものだと思うので検討していただきたい。



青嵐会  
むらかみ りゅういち  
村上 隆一



## ～子どもたちの目は疲れている～

**議員** GIGA スクール構想で子どもたちはタブレット端末を使っている。

「画面を見る機会が増え、ブルーライト(※)の影響が心配だ」と保護者から不安の声があった。ブルーライトをカットするシートを貼るのが難しいなら、専用のアプリをダウンロードしたり、タブレットを使用した授業では終わる前に数分程度でも遠くを見るような、目を休める取り組みをしてはいかがか。

**教育長** タブレット端末の使用状況や健康面への不安について、アンケートを検討している。内容をもとに対応を検討していく。

※ブルーライト…人の目に見える光の中に含まれているもので、紫外線の次に波長の短い光。非常にエネルギーが強く目の奥まで届くので、健康被害が心配されている。

## ～男性が家事・育児をすると子どもが増えるか～

**議員** とある女性が「妊娠中ほど男性は頼りなく見える」と私に言ってこられ、妊娠中の女性や家庭に対する男性の意識はまだ低いと衝撃を受けた。男性と女性の家事・育児時間の差が小さいと出生率は上がる傾向があり、さらに男性が家事・育児をする時間が長くなれば第2子以降の生まれる割合は高くなるとも言われている。

男性の家事・育児参加を促進すれば出生率を改善できると考えるがいかがか。

**市長** 男性の家事・育児参加を促進することは重要だと考えている。

**議員** 尾道市にはアプリ「おのはぐ<sup>バイボシ</sup>by 母子モ」がある。このアプリはパパとママのスマホから赤ちゃんの情報が共有できる。その中に、男性へのアドバイスコーナーを設けてみてはいかがか。

**市長** 男性に特化した掲載内容の検討をすすめる。



一般質問とは、議員が、定例会において、行政全般にわたり、市の事務の執行状況や将来の方針について執行機関（市長など）に質することです。名前の二桁元バーコードをスマホなどで読み取っていただくこと各議員の実際の本会議での質問動画を見ることが出来ます。



平成会  
よしわ ひろし  
**吉和 宏**



## 財政に対する考え方

**議員** これまで行ってきた人件費・公共事業費削減による歳出の大幅削減は限界に近付きつつあると考える。今後の歳出削減・歳入の増加策についての考えは。

**市長** 投資的経費の抑制や事務事業におけるICT化の促進、民間活力の導入などで着実な歳出の抑制を図る。歳入面では、使用料や手数料の見直し、ふるさと納税制度の充実、私有地貸与による財産収入の確保に加え、全方位的な取り組みを進めつつ公共施設の削減を行う。

## 子どもたちの心を救え

**議員** 長引くコロナ禍は、子どもたちの心に深刻な影響を与えている。文科省の調査で、昨年度の小中学生の自殺者数、不登校数が過去最多となったことが判明した。子どもたちが不安や悩みをより打ち明けやすい体制を、一刻も早

く充実させる必要があるが見解は。

**教育長** 本市では、令和元年度と本年度の比較で、小学校の不登校児童数が1.7倍、中学校での暴力行為が1.8倍に増加しており、長引くコロナ禍の影響があると考えている。面談や指導主事による指導助言などに加え、タブレット端末などICTを活用した相談体制の充実に取り組むとともに、「校内の居場所づくり」であるスペシャルサポートルームの導入を検討している。

## 今こそスポーツ力の活用を

**議員** 中長期に新型コロナウイルス感染症対策を強いられるうちに運動不足となり、身体的・精神的な健康を脅かす「健康二次被害」が懸念されている。withコロナの時代に向かって、スポーツの普及促進や環境整備に注力すべきと考えるが見解は。

**教育長** 本市が力を入れてきたサイクリング、ソフトボール、グラウンド・ゴルフ等に加え、ボッチャのような誰もが手軽にできるスポーツを広めることやスポーツイベントの実施、スポーツ施設の改修等により、市民のスポーツに対する意識の高揚や健康寿命の延伸を図りたい。



志誠会  
おかの まさや  
**岡野 齊也**



## しまなみ海道通行料金 最大5割の値上げ報道について

**議員** 本市と隣接する今治市の市長が「3年後にしまなみ海道の通行料が最大5割値上げされる可能性がある」と発言されたことが報道されたが、この発言の確度について、尾道市行政の見解を問う。

**市長** 今治市長がタウンミーティングにおいて5割値上げに関する発言をされたもので、現時点で国からの発表はない。『令和6年3月末の現行料金制度の期間満了』に向けて、さらなる負担軽減を訴えていく。

**議員** 因島商工会議所から「しまなみ海道の通行料値下げ要望書」が毎年提出されている。現在、高齢者を中心に病院への通院代、子ども達の学校への通学定期代、働いている方の通勤代を含めて、大きな負担と感じている人は多い。特に多くの企業は資材や材料の運搬費、従業

員の通勤費等を販売価格に上乗せできていないのが現状だ。企業の競争力を含め非常に不利な立場におかれているので、国や県に対し、本市の橋代に対する「切実な声」を積極的に届けてほしい。

## インターネット光回線 未整備地域の解消に向けて

**議員** いまだ光回線未整備地域である浦崎町、百島町、原田町、因島重井町、因島洲江町、因島原町、瀬戸田町宮原、瀬戸田町御寺、瀬戸田町荻にお住まいの方々は、この度のエリア拡充について強い関心を持っている。光回線未整備地域解消スケジュールを広く知ってもらい、不安の解消につなげたいが、各家庭へのサービス提供開始時期はいつからか。

**市長** 令和4年3月からサービスの提供開始が見込まれている。その他の地域については、少し先行して、令和4年2月からの提供開始見込みである。

**議員** 1日も早いインターネット光回線のサービス提供開始と広報をお願いする。



志誠会  
うねもと しげる  
宇根本 茂



## 子育て支援から考えるこれからの尾道

**議員** 尾道における人口の減少・高齢化・他都市への流出などの課題をどのように考えているか。

**市長** 自然減少が主な要因であるが、若い世代、特に若い女性の結婚を理由とした転出超過が課題である。「市民が豊かな生活を送る活力ある地域社会」の実現を目指す必要がある。

**議員** 長江小、土堂小、久保小に通う児童は、現在先の見えない窮屈な登校を余儀なくされている。将来の学校編成の方針はいつ示されるのか。

**教育長** 子どもたちの安心安全はもとより、教育環境の充実を目指し、適正な教育規模の確保を基本としてきた。3小学校の在り方としては、「小中連携教育校、小中一貫教育校、義務教育学校」を、教育内容としては、各学校のこれまでの伝統や地域の特色を生かしたものとなるよ

う検討している。児童生徒数の推移や教室数を含む学校施設の面などから学校を設置する場所も検討している。

**議員** 「子育てするなら尾道で」の実現を目指し、働きながら子育てをする方を対象とした「子育てマンションの建設」を考えてみてはどうか。

**市長** 全国的に安心して子育てができるマンション建設を自治体が後押しする動きが出ている。広島県にも「子育てスマイルマンション認定制度」があり、本市も安心して子育てができる住環境整備の在り方について研究していく。

## 子ども達のスポーツの場所づくり

**議員** 学校施設（特に夜間照明）をスポーツで利用することについて何う。

**市長** グラウンドの夜間照明は今後利用実態を把握し、利用者にとって使いやすくなるよう改善を検討していく。

**議員** 「東尾道市民スポーツ広場」の照明設備についてはどうか。

**市長** 今後の検討課題としていく。



日本共産党  
おかの ながとし  
岡野 長寿



## 市長のリーダーシップで核兵器廃絶へ

**議員** バイデン米大統領の核兵器先制不使用宣言に賛意を示すよう岸田首相に働きかけるべきではないか。

**市長** 核兵器先制不使用宣言が核兵器廃絶につながることを期待している。

**議員** 岸田首相に核兵器禁止条約締約国会議にオブザーバー参加するよう要請すべきではないか。

**市長** 平和首長会議や日本非核平和宣言自治体協議会に参加する多くの自治体と共に、政府に働きかける。

## 中学校全員給食

**議員** 中学校全員給食の早期実現のため、新年度の教育行政の柱にすべきでは。

**教育長** 因北小敷地内への新たな給食調理場の整備と因島南小調理場の親子化改修整備

を行う予算を12月議会に提案した。中学校全員給食の早期実現に取り組む。

## しまなみ海道通行料金に生活割引を

**議員** 通勤割引、観光割引に続き、平日の市内通行分の生活割引をつくるべきだ。国に本気の要望活動を。

**市長** 現在の料金水準の継続と地域住民の生活対策として、さらなる負担軽減を訴えていく。

## 子ども医療費助成を高校生まで

**議員** 少子化対策として、子ども医療費助成を高校生まで広げ、一部負担金も廃止して無料化すべきでは。

**市長** 重要な施策であり、検討する。国や県にも要望する。

## 35人学級の実現

**議員** 35人学級はいつ実現するのか。

**教育長** 令和7年度にすべての学年が35人学級となる。中学校は未定。

一般質問とは、議員が、定例会において、行政全般にわたり、市の事務の執行状況や将来の方針について執行機関（市長など）に質することです。名前横の二次元バーコードをスマホなどで読み取っていただくこと各議員の実際の本会議での質問動画を見ることが出来ます。



日本共産党  
みうら とおる  
三浦 徹



## 生活に困窮している高齢者世帯等に救いの手を

**議員** 様々な物の物価が今年の8月頃から高騰してきている。物価が上がればそれだけ実質的に年金額や生活保護費が減ったのと同じことになる現状がある。こうした高齢の生活困窮者や生活保護世帯への支援のあり方はどのようになっているか。

**市長** 生活困窮者に対する制度の概要として、家計管理に関して指導・助言を行なう「家計改善事業」や「住居確保給付金」、「生活困窮者自立支援金給付事業」等がある。

**議員** 生活必需品の高騰で生活が苦しくなった方々、特に年金だけで生活をされている高齢者の方々に対しての支援策として、物価の高騰を新型コロナウイルス感染症による影響と位置付けて、新型コロナウイルス感染拡大に伴う様々な支援策を受けることはできないか。

**市長** 物価の変動には様々な要因が影響している。新型コロナウイルス感染症についても要因のひとつであると捉えている。年金で生計を維持されている高齢者に対しては「自立相談支援事業」、「家計改善事業」等の相談が主な支援策となっている。

**議員** 灯油や生活必需品の高騰で、生活が非常に苦しくなっている「生活保護世帯」へ、冬季加算として月1,000円の増額を求める。

**市長** 生活保護制度については法定受託事務として国の定めた基準に基づき行なっていることなので、尾道市が独自で冬季加算として上乗せ給付を行うことは考えていない。

### 一般質問を終えて…

コロナの影響で生活必需品をはじめ物価の高騰が続いています。生活保護世帯や生活に困窮している高齢者世帯への支援策の拡充を強く求めます。



市民連合  
やま と しげはる  
山戸 重治



## 新型コロナワクチン接種の2回目は85.6%が完了 3回目も順次予約券を発送し、集団接種と個別接種などこれまでと同じ方法で実施の予定

**議員** 尾道市のワクチン接種の状況、集団接種と個別接種の2つの方法を併用してきた結果とその評価は。また、3回目のワクチン接種の予約方法、接種会場などはどうなるか。

**市長** 12月9日現在では全体で85.6%の方が2回目の接種を完了し、集団接種と個別接種の割合は、集団接種が2万9,000人で31%、個別接種が6万3,000人で66%、残り3%は職域接種である。

本市は医師会、薬剤師会をはじめ関係機関の協力により多くの施設で接種できる体制を整え、市民の皆様には自らの生活圏の範囲で平日休日を問わず接種の機会を提供できたと考えている。

現時点において、3回目の接種については、2回目の接種後8カ月経過を念頭に順次接種券を発送する予定で、令和3年4月末までに2回目を終えた方にはすでに発送している。

国は接種の前倒しを検討中で、決定次第可能な限り対応したい。接種会場は、集団接種会場と個別医療機関で、2回目までと同様に、集団接種はコールセンターへ電話するか専用Webページから予約し、個別接種は各医療機関へ直接電話で予約する。

## すでに国・県と連携しスーパーヨット寄港誘致を進めている

**議員** 近年では港を活用した施策で「スーパーヨットの寄港誘致」に取り組む自治体が出ている。市の中央ビジター棧橋は、商店街や千光寺公園が近く、寄港に関して良い立地条件だと思いが、市長の認識は。

**市長** スーパーヨットは一度寄港すると比較的長期に滞在し、燃料や食料の補給などで経済効果が高く、地域活性化へも寄与すると考え、すでに国・県と連携して積極的な誘致を進めている。





市民連合  
だんじょう まさみつ  
檀上 正光



### 地球温暖化防止や気候危機への対応は

**議員** 尾道市は令和2年11月「ゼロカーボンシティ」宣言を行ったが、その施策や取り組み状況はどのようになっているか。

**市長** 「尾道 COOL CHOICE（※）プロジェクト推進事業」は、家庭や個人等が自発的に地球温暖化対策に取り組むよう普及・啓発を行うものである。そのためのリーフレットやポスター、PR動画などを作成し、掲示や配布、配信を行うことでクールビズやエコドライブなどを広報・啓発した。

今年度は新たに「うちエコ診断士」による住宅の省エネ化相談会、「エコ住キャンペーン」を実施し、参加者からは「リフォームの参考になった」、「光熱水費が安くなるので実践したい」などといった感想をいただいた。

他にも市の施設や事務事業における再生可能エネルギーの導入やLED化の促進等を図っていく

ためのロードマップ（工程表）を作成することとしている。

※ COOL CHOICE … CO<sub>2</sub>などの温室効果ガス排出削減のため、脱炭素社会に貢献するあらゆる賢い選択をしようという取組み

**議員** 市の公共施設への太陽光発電設備や蓄電設備などの設置状況はどうか。

**市長** 太陽光発電設備は向島支所や長者ヶ原スポーツセンターなど12カ所に、蓄電設備は長者ヶ原スポーツセンターや三庄公民館など5カ所に設置している。

**議員** 県内では6市5町が太陽光発電設備や蓄電設備の導入促進のため補助事業に取り組んでいる。尾道市でも取り組みを始めてみてはどうか。

**市長** 本年度県内では、太陽光発電設備が2市町、家庭用蓄電池が4市、電気自動車充給電設備が1市、燃料電池設備が5市、木質バイオマス燃焼機器が5市町で導入補助を行っている。

本市における補助制度の創設については国の動向を見ながら研究していきたい。

一般質問を終えて…  
引き続き再生可能エネルギー設備導入補助事業を訴えていきたい。

## ピックアップ議案 - この議案ってどんなこと?? -

(※1万円未満切捨)

**P** 議案第129号 令和3年度尾道市一般会計補正予算(第11号)

- 新型コロナウイルスワクチン接種事業 4億8,735万円
- 因島地域学校給食施設整備事業 178万円

**P** 議案第128号 令和3年度尾道市一般会計補正予算(第10号)  
&  
議案第150号 令和3年度尾道市一般会計補正予算(第12号)

**歳入** 国庫  
支出金 ●子育て世帯臨時特別給付金給付事業費補助金 18億6,056万円

**歳出** ●子育て世帯臨時特別給付金給付事業 18億6,056万円

(内訳) 子育て世帯臨時特別給付金 18億4,930万円  
人件費、事務費 1,126万円

子育て世帯(※)の生活を支援するために一時金を支給する事業です。当初は子1人当たり5万円を先行して給付するとしていましたが、政府の方針変更を受けて10万円を現金一括で支給することとしました。(給付金の支給には所得制限があります。)

※子育て世帯…平成15年4月2日から令和4年3月31日までの間に出生した子を養育している世帯